

備前市事務事業評価表

事務事業名	感染症予防事業	コード	02-02-05-03
		担当課・係	保健課健康係
		担当者	菊川智宏
事業実施期間	平成12年4月1日から(狂犬病予防事業)		
	大項目(基本目標)	健康でやさしさあふれるまちづくり	
	中項目(基本施策)	健やかで生き生きしたまちづくり	
	小項目(施策)	結核・じん肺(健康教育の推進)	
総合計画事業(政策)体系		電話	64-1820(内線223)

事業について	
目的(何のために)	狂犬病及び感染症の発生を予防し、その蔓延を防止し、住民の健康保持に努める。
対象(誰・何を対象に)	犬の所有者 被災住民等
内容	犬の登録、狂犬病予防注射の実施及び注射済票の交付 災害時における消毒等の防疫活動及び感染症予防の衛生教育

事業の結果			
実施項目	17年度 回数など(単位)	18年度 回数など(単位)	回数など(単位)
犬の登録	176 件	180 件	
狂犬病予防注射済票の交付	1,541 件	1,420 件	
集合注射	90 ヶ所	72 ヶ所	

事業費 (単位:千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	363	間接補助金等		直接事業費	287	間接補助金等	
	人件費	5,131	委託費負担	1,369	人件費	4,650	委託費負担	1,365
	合計	5,494	一般財源等	4,125	合計	4,937	一般財源等	3,572
					合計	0	一般財源等	0

結果指標	結果指標名	犬の登録	犬の登録	
	結果指標量	176	180	
	単位	件	件	
結果指標	対前年比	-	102.27%	0.00%
	活動にかかるコスト	5,494,000 円	4,937,000 円	
	単位当たりコスト	31,216 円	27,428 円	
結果指標	結果指標名	狂犬病予防注射済票交付	狂犬病予防注射済票交付	
	結果指標量	1,541	1,420	
	単位	件	件	
結果指標	対前年比	-	92.15%	0.00%
	活動にかかるコスト	5,494,000 円	4,937,000 円	
	単位当たりコスト	3,565 円	3,477 円	

事業の成果			
どのような成果を得ようとしているか	狂犬病予防注射の接種率の向上		
成果指標名	注射実施割合	式又は説明	(注射件数/登録件数) × 100
	17年度	18年度	
成果指標量	70%	65%	
対前年比	-	93.71%	0.00%
到達目標値	75%	到達目標年度	平成20年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成18年度事業)
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	関係法令等で目的が定められており妥当である 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている 事業開始当初の目的から変化しつつある 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である 関係法令等: 狂犬病予防法、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律
	対象の妥当性	受益者の拡大を検討する余地がある 受益者の縮小を検討する余地がある 現在の対象者は妥当である
	市民ニーズの妥当性	市民、団体などから要望・要請のある事業である 市民に概ね好評な事業である 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である
効率性の評価	コストの効率化	国・県又は関係法令で定められている事業である 民間に類似サービスがある 本市が関与すべき事業である 事業を取り止めた場合の影響は大である
	手段の最適化	単位当たりコストは増加傾向にある コスト削減の努力をしている できる限り民間活力を利用している 受益者負担額は適正である
	職場の効率化	最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている 他に有効な代替手段が見当たらない 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている
有効性の評価	目的達成度	事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている 事業に関するOJT(職場研修)は行われている 事業の進行管理を定期的に行っている 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい
	成果向上の可能性	成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである 成果指標は前年度より向上している 成果は向上しており今後も向上する見込みである 今後、成果指標は向上する余地がある
	市民参画度	事業について積極的に情報提供している 事業実施等で積極的に市民意見を反映している 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている
妥当性評価<A~E>		B
課題認識	狂犬病は、事業を継続的に行うことにより、昭和32年以降国内では発生していない。今後も継続していく必要があり、広報紙や犬の所有者への通知により、市民への周知を図っている。また、県からの感染症速報等を広報・チラシ等で迅速に市民に伝え、注意喚起を図っている。	
効率性評価<A~E>		B
課題認識	狂犬病予防事業は、平成12年度に市へ事務移管があり、市民の利便性を考慮した事業実施が可能になった。また、社団法人岡山県獣医師会に手数料の収入事務を委託し、市民の利便性を図っている。	
有効性評価<A~E>		C
課題認識	岡山県内(岡山市、倉敷市を除く)の狂犬病予防注射割合の平均(61%)及び東備保健所管内の狂犬病予防注射割合の平均(63%)を上回っているが、今後も広報活動などにより市民への周知を図り、成果の向上に努めなければならない。	

平成19年度状況	<input checked="" type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している	説明	集合注射をより効率的に実施するために、実施時期や実施時間を検討している。
	<input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している		
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了		
	<input type="checkbox"/> 事業を縮小している			
目標値	結果指標量	180	結果指標量	1,420
	成果指標量	65%		

総合評価	狂犬病予防事業に関しては、予防注射の接種率の向上に努め、市民の利便性を図るとともに、より効率的な事業実施を行なう必要がある。また、感染症予防に関する知識・情報を広報誌等により周知・啓発していく必要がある。	評価区分<A~E>	C
------	--	-----------	---

平成20年度以降の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
	<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する
		<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了

平成20年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	集合注射の計画について、実施場所や実施時間を再検討する。	毎年度	実施計画を見直すことにより、より効率的に実施できる。